

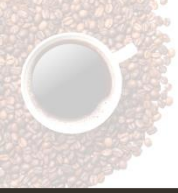


# 2020年12月期 決算説明資料

東証一部 2597

## 株式会社ユニカフェ

2020年1月1日～2020年12月31日



# 決算の概況

## ～連結～

# 決算概況：連結PL

売上高 146億9百万円、営業損失 3億15百万円

(百万円)

	2019年12月期 (2019年1月1日～12月31日)		2020年12月期 (2020年1月1日～12月31日)	
	(連結)	対売上高比	(連結)	対売上高比
売上高	19,043	100.0%	14,609	100.0%
営業利益又は 営業損失(△)	85	0.5%	△315	△2.2%
経常利益又は 経常損失(△)	74	0.4%	△268	△1.8%
親会社株主に帰属する 当期純損失(△)	△130	△0.7%	△2,085	△14.3%
E B I T D A	697	3.7%	128	0.9%
R O E	△1.7%		△29.9%	

# 連結PLの内訳

(百万円)

	2020年12月期 (2020年1月1日～12月31日)								
	(当社)	対売上高 比	(アート コー ヒー)	対売上高 比	(カップ ス)	対売上高 比	(連結調 整)	(連結)	対売上高 比
売上高	8,609	100.0%	5,819	100.0%	432	100.0%	△252	14,609	100.0%
営業利益又は 営業損失 (△)	5	0.1%	△69	△1.2%	△181	△42.1%	△70	△315	△2.2%
経常利益又は 経常損失 (△)	39	0.5%	△34	△0.6%	△182	△42.1%	△91	△268	△1.8%
親会社株主に 帰属する当期 純損失(△)	△2,062	△24.0%	△515	△8.9%	△297	△69.0%	790	△2,085	△14.3%

# 決算概況：連結BS

自己資本比率は前連結会計年度末比7.4%p減少し40.6%

(百万円)

		2019年12月期 (連結)	2020年12月期 (連結)	増減額
資産の部	流動資産	8,161	8,205	43
	固定資産	8,531	6,341	△2,189
資産合計		16,692	14,546	△2,145
負債の部	流動負債	4,995	4,136	△859
	固定負債	3,677	4,509	831
	負債合計	8,673	8,646	△27
純資産の部	株主資本	8,016	5,909	△2,106
	評価・換算差額等合計	2	△8	△11
	純資産合計	8,019	5,900	△2,118
負債純資産合計		16,692	14,546	△2,145
自己資本比率		48.0%	40.6%	△7.4%p

# 決算概況：連結CF

(百万円)

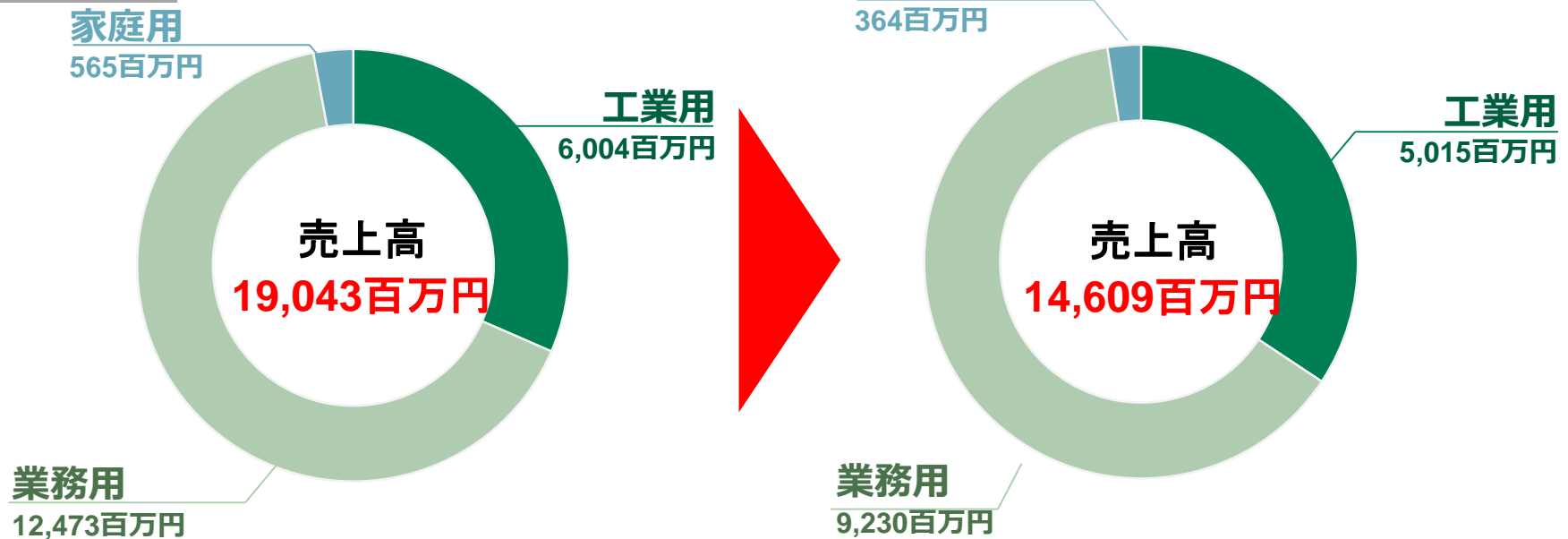
	2019年12月期 (1月1日~12月31日) (連結)	2020年12月期 (1月1日~12月31日) (連結)
営業活動による キャッシュ・フロー	770	371
投資活動による キャッシュ・フロー	△2,055	△111
財務活動による キャッシュ・フロー	1,782	1,040
現金及び現金同等物の 増減額	498	1,300
現金及び現金同等物の 期末残高	2,927	4,227

# 分野別 サマリー(連結)

2019年12月期 連結 (2019年1月1日～12月31日)

2020年12月期 連結 (2020年1月1日～12月31日)

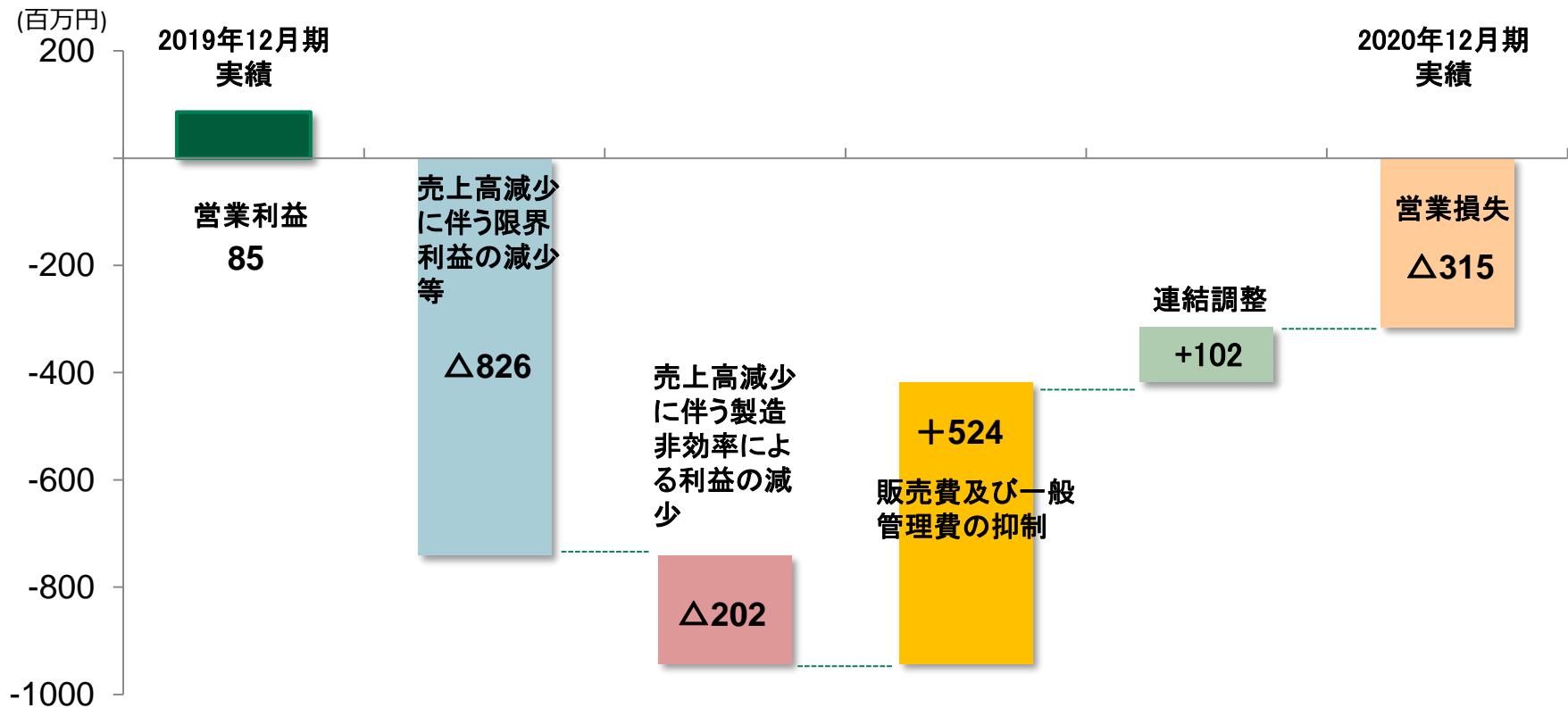
売上高



新型コロナウイルス感染拡大を受けた緊急事態宣言により、業務用事業の主要取引先であるカフェ・レストラン・コンビニエンスストアやオフィス・ホテル等のコーヒー需要が低迷し、大幅に減収

# 営業利益の増減分析(連結)

当連結累計期間の営業損失3億15百万円





# 2020年12月期 トピックス

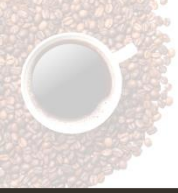
## ◆ 特別損失の計上

新型コロナウイルス感染拡大の影響を踏まえて、キューリグ関連事業及びアートコーヒー事業の今後の事業計画の見直しを行い、将来収益に関する不透明感が高まったことを踏まえて、回収可能性を慎重に検討した結果、2,170百万円の減損損失を計上

## ◆ 株式会社カップスの新設並びに同社株式の一部をユーシーシーホールディングス株式会社に譲渡

一杯抽出事業のうち販売機能について、2020年4月に新設した株式会社カップスに吸収分割し、当社が保有する同社株式の一部をユーシーシーホールディングス株式会社に譲渡

2020年9月に株式会社カップスの株式をユーシーシーホールディングス株式会社に株式一部譲渡を行い、同社は連結子会社から持分法適用会社となる



# 決算の概況 ～個別～

# 決算概況：当社個別～ユニカフェ～

## 売上高8,609百万円、営業利益5百万円

(百万円)

	2019年12月期 (2019年1月1日～12月31日)		2020年12月期 (2020年1月1日～12月31日)	
	(個別)	対売上高比	(個別)	対売上高比
売上高	10,594	100.0%	8,609	100.0%
営業利益又は 営業損失(△)	△34	△0.3%	5	0.1%
経常利益又は 経常損失(△)	△24	△0.2%	39	0.5%
当期純損失(△)	△175	△1.7%	△2,062	△24.0%

新型コロナウイルス感染拡大を受けた緊急事態宣言解除後も、引き続き業務用事業の主要取引先であるカフェ・レストラン・コンビニエンスストアやオフィス・ホテル等のコーヒー需要が低迷し、大幅に減収

# (セグメント別)個別PL～ユニカフェ～

(百万円)

2020年12月期  
(2020年1月1日～12月31日)

	2020年12月期 (2020年1月1日～12月31日)					
	工業用	(対売上高比)	業務用	(対売上高比)	キューリグ事業	(対売上高比)
売上高	4,177	100.0%	3,699	100.0%	733	100.0%
売上総利益	286	6.8%	730	19.7%	157	21.4%
営業利益又は 営業損失 (△)	131	3.1%	459	12.4%	△23	△3.1%

(製造部門収支及び管理部門における間接費用の配賦前)

新型コロナウイルス感染拡大を受けた緊急事態宣言により外食需要が低迷し、  
業務用事業の収益確保に大きく影響。

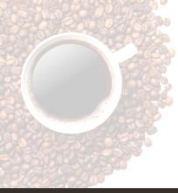
# 決算概況：アートコーヒー個別

## 売上高5,819百万円、営業損失△69百万円

(百万円)

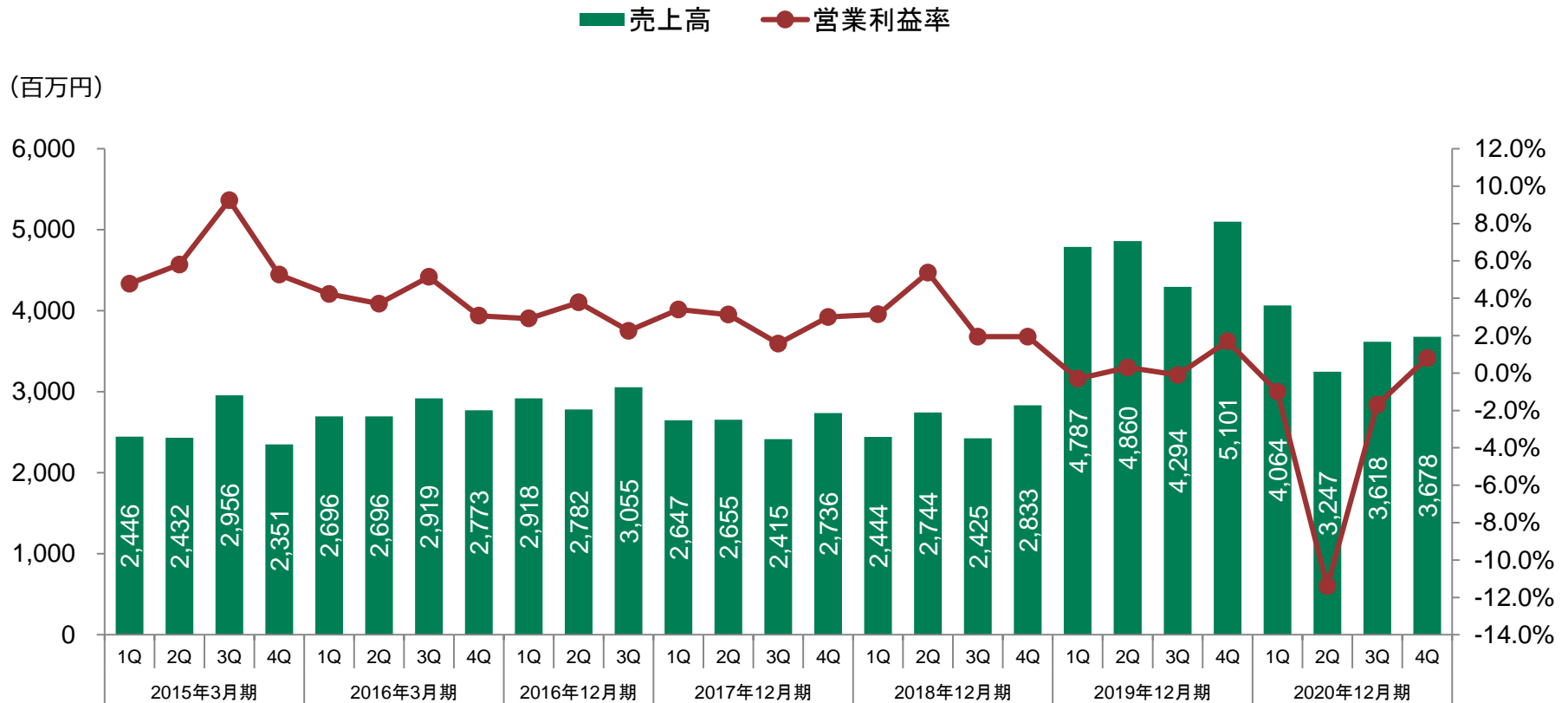
	2019年12月期 (2019年1月1日～12月31日)		2020年12月期 (2020年1月1日～12月31日)	
	(個別)	対売上高比	(個別)	対売上高比
売上高	8,451	100.0%	5,819	100.0%
営業利益又は 営業損失(△)	292	3.5%	△69	△1.2%
経常利益又は 経常損失(△)	271	3.2%	△34	△0.6%
当期純損失(△)	186	2.2%	△515	△8.9%

主力の業務用事業において、新型コロナウイルス感染拡大に伴う外食関係の取引先の臨時休業及び時短営業が収益に大きく影響



# 主な指標

# 四半期業績の推移

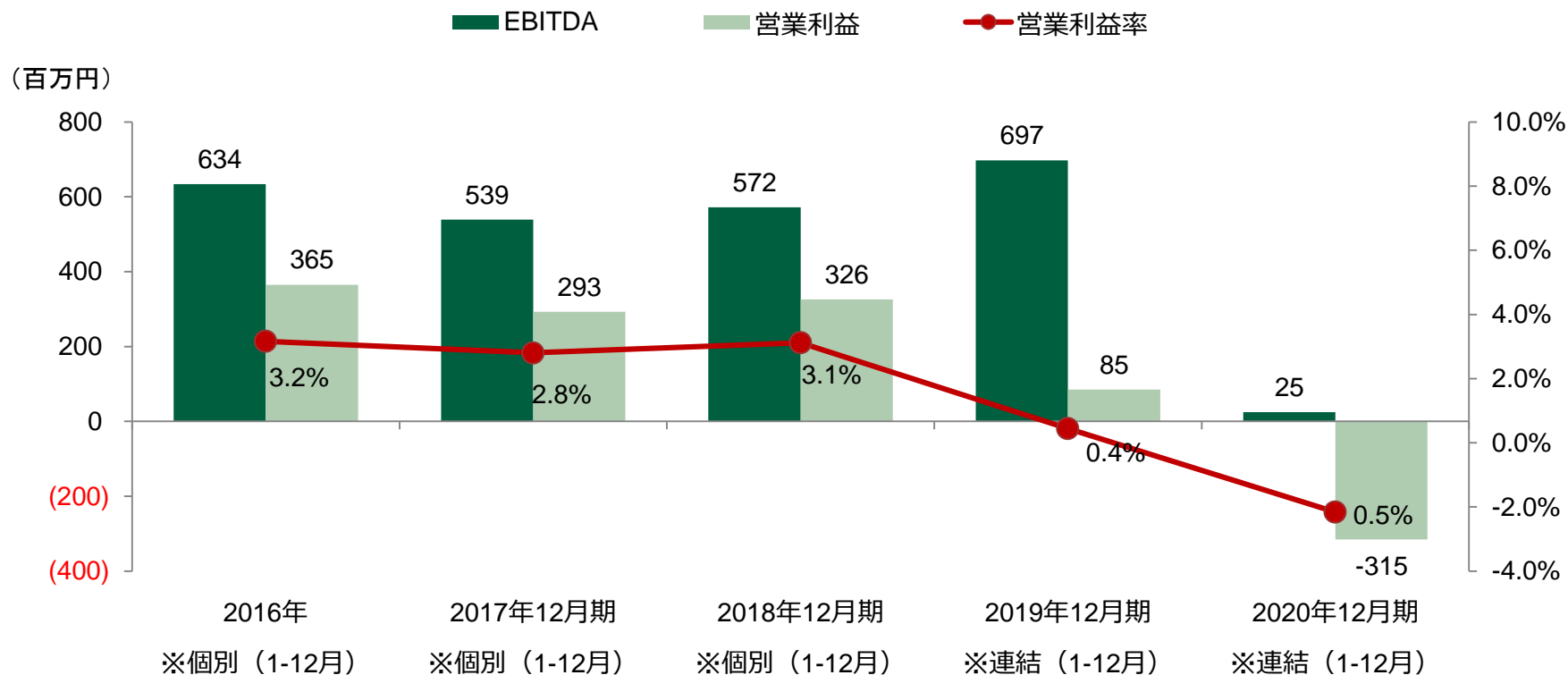


※1. 2016年12月期は決算期変更により、2016年4月1日から12月31日までの9ヶ月決算となっております。

※2. 2019年12月期より連結決算となっております。

# EBITDA・営業利益の推移

## 営業利益率、前年比0.1%p低下

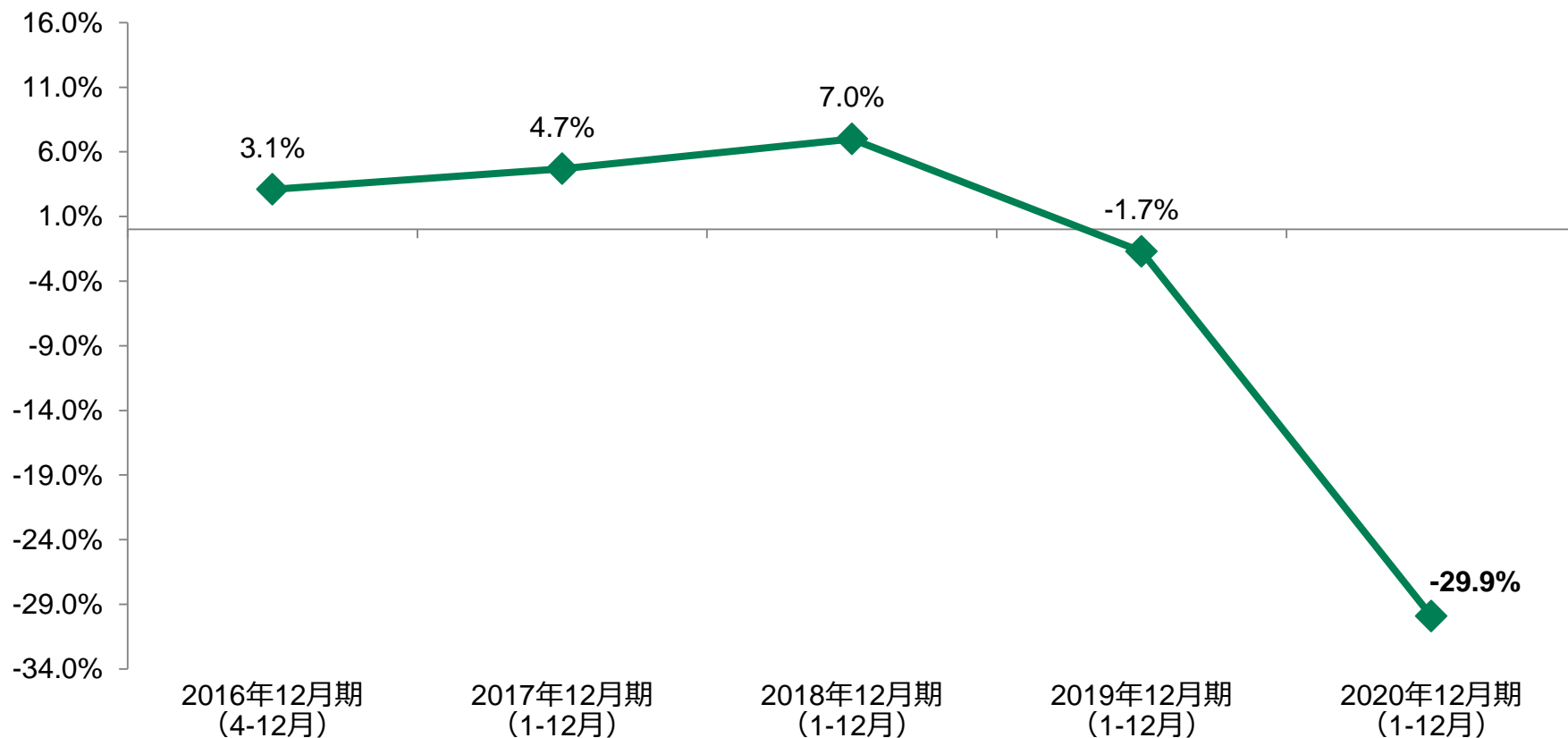


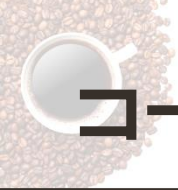
※ 2016年以前は、1-12月に補正した個別決算の数値となります。

※ 2019年12月期より連結財務諸表を作成しております。



## 前年同期比28.2% p 低下

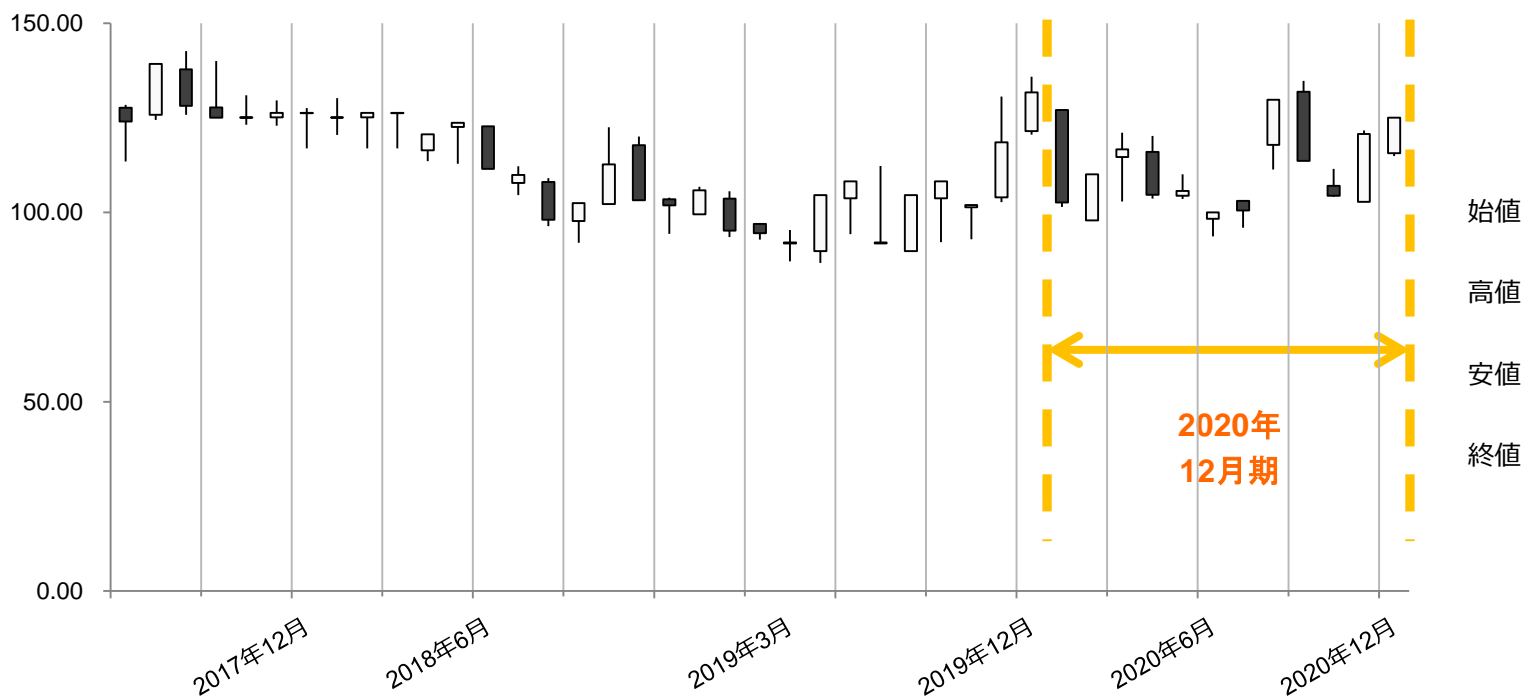


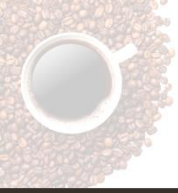


## 低い水準で推移しているが、 為替変動により先行きは不透明な状況

### NYコーヒー相場

(¢/ポンド)

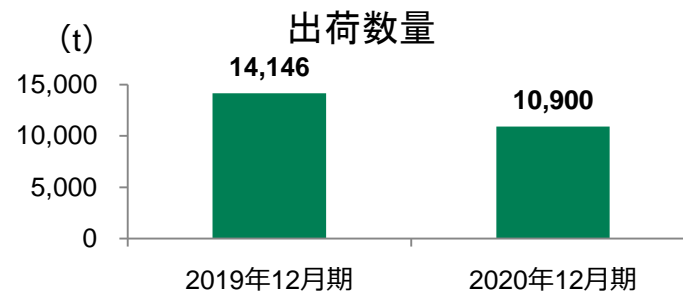
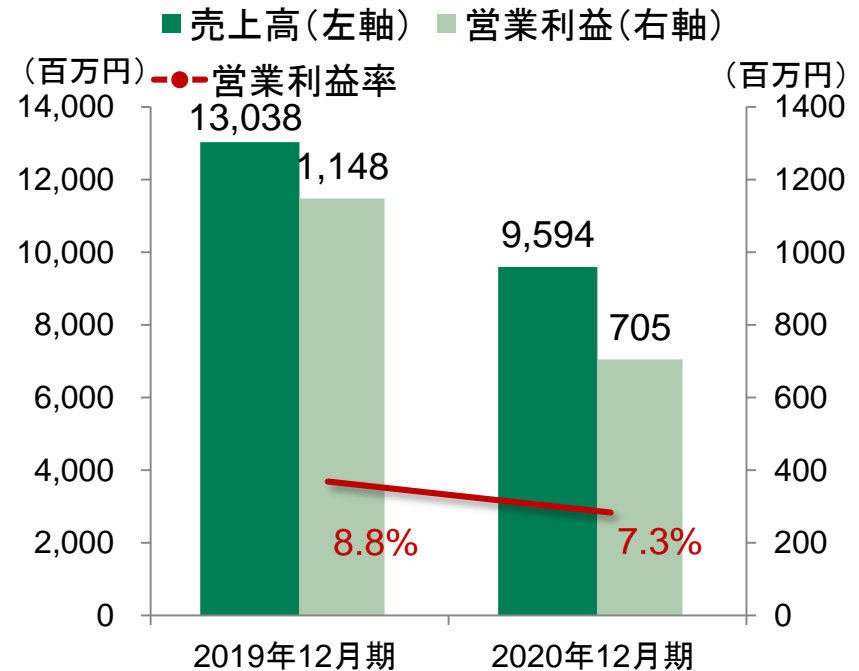




# 2020年度の業績 ～セグメント別～

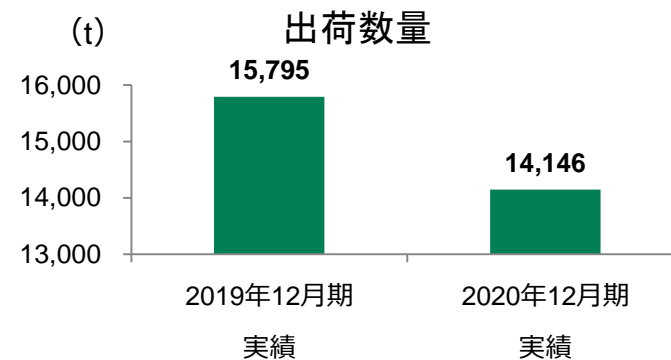
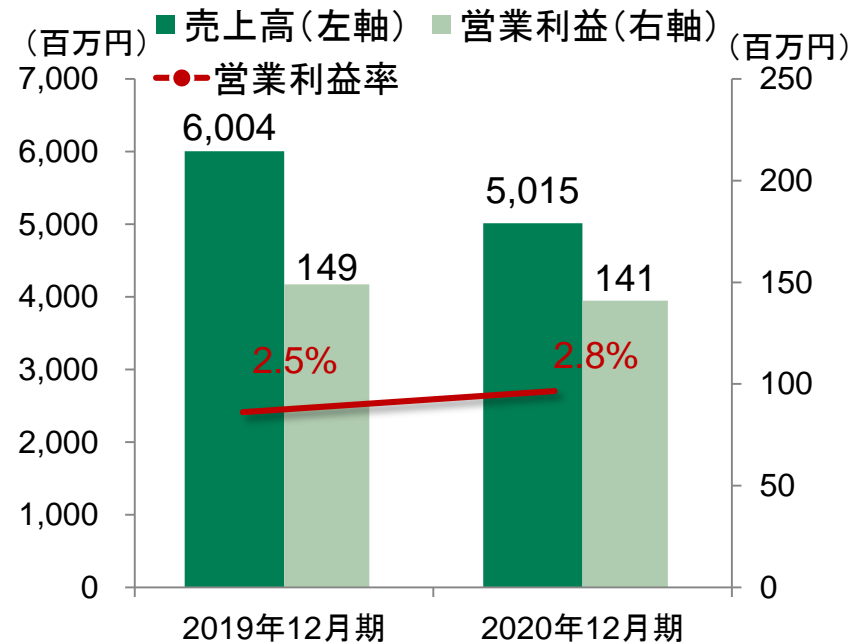
# セグメント別の業績(業務用)

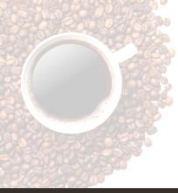
- ☛ 新型コロナウイルス感染拡大により発出された緊急事態宣言を受け、外食需要が低迷し収益に大きく影響
- ☛ 巣ごもり消費による内食へのシフトなど、食の消費行動に変化が見られたが、業務用事業の消費量減少を補完するまでには至らず



# セグメント別の業績(工業用)

- 新型コロナウイルス感染拡大による外出自粛の影響を受け、各主要大手取引先の取扱数量が大幅に減少



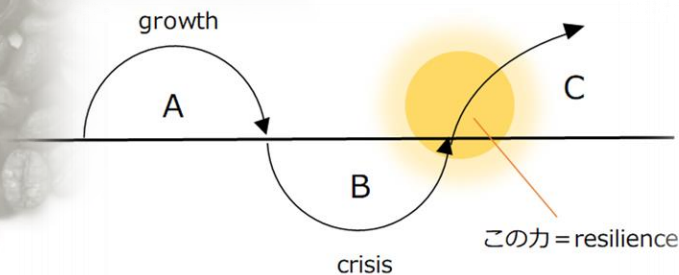


# 今後の戦略

# レジリエントプラン

## Resilient Plan

レジリエントとは  
様々な環境状況に対しても、しなやかに適応し、生き延びる力のこと



# レジリエントカンパニーになる

## <「With CORONA」の市場環境>

## <ユニカフェがこれからできること>

缶コーヒー  
チルドコーヒー

巣ごもり需要で堅調  
チルド飲料がトレンド化(乳業メーカー)  
自動販売機は低迷続きメーカー毎に優勝劣敗が顕著  
※昨対6月▲13%、5月▲37%(飲料総研より)  
原料RC割合減少、エキス増加

オフィスから自宅飲用シーン変化への対応  
飲料会社開発機能の受託  
香料会社とのアライアンス強化による国内エキスの提供  
当社-ART工場効率化(価格訴求・ART工場有効活用)

カフェチェーン  
ファミレス 等

緊急事態宣言に伴う外食店舗の休業、営業時間短縮による外食機会の減少  
テイクアウト・デリバリーの利用増加  
オフィス、ホテル利用機会減少  
オフィスの一局集中型から分散化  
解除後もL字回復

店舗に頼らないビジネスモデル再構築(物流)  
ECサイト強化  
サテライト分散型への対応  
家庭用で消費する製品のラインナップ拡充  
顧客価値の変化(リアル体験)への対応  
サブスクリプションの推進

DB

外出自粛、テレワーク拡大による巣ごもり需要による拡大期  
各流通のPB化 大手NBの拡大  
海外需要の増加

多種多様(形状、サイズ)の多品種少量生産体制の構築(どこからでも受託できる体制の構築)  
設備投資  
人材育成  
ECサイト強化

カプセル

オフィスの一局集中型から分散化  
AH(家庭用向け)に市場がシフト

オフィスから自宅への配送手段の構築(物流)  
AFH(業務用向け)からAH(家庭用向け)への市場転換  
サブスクリプションの推進  
ECサイト強化



# ユニカフェが考える Beyond CORONAの世界

レジリエントカンパニーになるためのマイルストーン

2020年  
With CORONA

2021年

2022年  
Beyond CORONA

## 緊急事態対応

- ✓コスト削減
- ✓投資見直し
- ✓手元流動性の確保

## 構造改革の推進

- ✓アートコーヒーPMIの加速
  - ・営業は多様性を推進
  - ・生産、非営業体制の再編
- ✓カップスの関連会社化

## レジリエントプランにおける成長ドライバー

- ✓SSMS(※注)への設備投資
- ✓業務用事業におけるプレゼンス向上
- ✓工場再編によるコスト優位性

(※注) SSMS…

Single Serve Manufacturing System  
当社の造語 一杯抽出型製造システム

## ✓ SSMSの完成に向けた設備投資

- ・オペレーション、人材の育成
- ・IOT化、自動化による省人化
- ・最新設備の導入

## ✓ 業務用事業の各社に向けた Beyond CORONA対策の実行

### コンパクトシティ化

- ✓DX
- ✓リカーリングモデル
- ✓D2C
- ✓User Experienceの追求



- ・テイクアウト
- ・宅配
- ・サブスク
- ・多種多様なSSの提供

# 目指すゴール

- ✓ SSMS — Drip bag製造 185Mp/年 → 400Mp/年  
 Keurig製造 24Mp/年 → 100Mp/年
- ✓ 業務用事業におけるプレゼンス向上  
 R&Dの強化 → 焙煎プロファイリング → AI → データドリブン  
 10,000t (グループ取引を含む) → 12,000t/年
- ✓ 工場再編による優位性 圧倒的ボリュームによる価格競争力の実現



## 目指すゴール

	2020年 (実績)		2024年 (目標)
売上高	14,609百万円	→	19,000百万円
営業利益又は 営業損失(△)	△315百万円	→	670百万円
EBITDA	128百万円	→	980百万円

## 設備投資(2020年12月期実績)※当社個別

SSMSに関わる設備	330百万円
------------	--------

その他投資	155百万円
-------	--------

# 資本金及び資本準備金の額の減少について

- ◆ 2021年3月24日開催予定の第49期定時株主総会に、資本金及び資本準備金の額の減少の件を付議

## 【目的】

- ・ 今後の効率的な経営の推進及び財務体質の健全化
- ・ 資本政策の柔軟性及び機動性を確保
- ・ 剰余金の配当による株主還元政策の実現を図り、これまで通り安定的な配当を可能とする

## 【資本金の額の減少の内容】

資本金の額5,008,156,400円のうち2,504,078,200円を減少して、資本剰余金に振り替え  
**減少後の資本金の額：2,504,078,200円**

## 【資本準備金の額の減少の内容】

資本準備金の額1,302,056,400円のうち、753,125,837円を減少して、その他資本剰余金に振り替え  
**減少後の資本準備金の額：548,930,563円**

本件は純資産の部における勘定科目の振替処理であり、純資産の額に変動はなく、発行済株式総数にも変更はなし

# 2021年12月期業績予想について

2021年12月期通期連結業績予想（2021年1月1日～2021年12月31日）

次期の業績予想につきましては、新型コロナウイルス感染の再拡大に伴い、2021年1月7日に2回目の緊急事態宣言が発令され、さらに1月13日には11都府県に対象地域が拡大されたことにより、不要不急の外出自粛の要請、飲食店の営業時間短縮要請等による食への消費行動の変化を含めて、適正かつ合理的な算定が困難であることから、2021年12月期の業績予想を未定とさせていただきます。

今後は、動向を見極めながら、業績予想の算定が可能となった段階で速やかに公表いたします。

# Disclaimer : 本資料に関するご注意

## 免責事項

本資料に記載の内容は、過去及び現在の事実に関するものを除き、当社が現時点で入手可能な情報及び仮説に基づいて判断されたものであり、当該仮説や判断に含まれる不確定要素や、将来の経済環境の変化等により影響を受ける可能性があり、結果として当社の将来の業績と異なる可能性があります。

なお、本資料における将来情報に関する記述は上記のとおり本資料の日付(またはそこに別途明記された日付)時点のものであり、当社は、それらの情報を最新のものに随時更新するという義務も方針も有しておりません。

また、本資料に記載されている当社以外の企業等にかかわる情報は、公開情報等から引用したものであり、かかる情報の正確性・適切性等について当社は何らの検証も行っておらず、また、これを保証するものではありません。

本資料利用の結果生じたいかなる損害についても、当社は一切責任を負いません。

## インサイダー取引に関するご注意

企業から直接、未公開の重要事実の伝達を受けた投資家(第一次情報受領者)は、当該情報が「公表」される前に株式売買等を行うことが禁じられています(金融商品取引法166条)。

同法施行令第30条等の定めにより、二つ以上の報道機関に対して企業が当該情報を公開してから12時間が経過した時点、または金融証券取引所に通知しかつ内閣府令で定める電磁的方法(TDnetの適時開示情報閲覧サービスおよびEDINET公開WEBサイト)により掲載された時点を以って「公表」されたものとみなされます。